漁師として“獲る・育む・繋げる”鹿児島湾

12 つくる責任 つかう責任　14 海の豊かさを守ろう

SDGsに「海の豊かさを守ろう」というゴールがあります。海は私たちにたくさんの恵みをもたらしていると同時に、近年とても問題になっている海洋プラスチックによって危機にさらされています。鹿児島の海で働いている漁師さんは、日々海に出ることで何か感じていることがあるのでしょうか。今号は漁師さんならではの視点で海について語ってもらいました。

SDGs：2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」

漁師さんから伝えたいこと

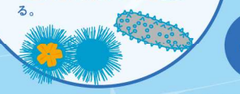
いろんな魚を食べてほしい。今は、みんなが知っている魚しか買ってもらえていないと感じます。鹿児島は漁ができる海域がとても広く、たくさんの魚が獲れますが、そのうち流通する魚は少ないです。それは売れないから。知られていない魚でもおいしい魚はたくさんあるので、いろんな魚に興味をもってもらい、食べてほしいと思います。

定置網漁

魚の通り道を遮断し、魚が網に沿って進む習性を利用して袋網に誘い込む漁業。ブリ、アジ、イワシ、イカなどが獲れる。

潜水漁業

潜水器をつけて海に潜り、手で直接ウニなどを獲る漁業。船は、潜り手が吐く泡を見失わないように併走し、見張りや船上作業をする。ムラサキウニ、ガンガゼ、ナマコを獲る。



定置網漁 川畑さん・横山さん

定置網は「魚が入るのを待つ漁業」。船の設備が格段によくなり、昔と比べると船の作業がとても楽になりました。獲れる魚は年変動がありますが、10年前と比べて南方系の海藻を食べる魚“イスズミ・アイゴ・ニザダイ”が獲れるようになりました。海藻を食べられてしまうと、稚魚が隠れる環境が減ってしまい、その結果稚魚が減ってしまいます。これらの魚を人が食べることで数を減らしたいところですが、全く売れない魚で困っています。漁師だけでなく、市場、仲買い、消費者が一緒になって減らす取り組みをしないといけないと感じます。

他にも、南方系の海藻が増えました。以前は3～4月に海藻が増え、そこにアオリイカが産卵に来ていましたが、最近は5～6月に海藻が増えるようになり、アオリイカが獲れる時期が変わってきました。

魚を獲りすぎないことや、稚魚が育つ環境を整えることに積極的に取り組んでいます。

漁師さんの1日のスケジュール

潜水漁 山口さん

両親の代から続く漁師で、現在26年目。今は兄弟で漁をしています。漁ができるエリアが決まっていて、その範囲内で獲る量や場所、深さなどを調整しながら身入りのいいウニが獲り続けられるよう気をつけています。また、ウニの産卵時期には休漁にしています。長く漁をしていて感じることは、卵が入る時期が遅くなったり、短くなったりする年があります。それが温暖化によるものか、周期的なものかは判りません。ウニは海藻をエサとして食べます。ウニが密集していると身入りが悪くなり、海藻も減ってしまいます。漁師が適度に獲ることによって、ウニも大きく育つし海藻も健全に育つという良いバランスを保つことが出来ているのです。

稚魚の放流

公益財団法人かごしま豊かな海づくり協会の主体事業としてマダイとヒラメの稚魚を放流しています。2018年度はマダイ86万尾、ヒラメ51万尾を放流しました。イベントとして子どもたちに放流体験をしてもらうこともあります。放流の効果は地域によっても差がありますが、県全体では、調査尾数のうち放流魚の混入率は、マダイが0.8%、ヒラメが10.5%(2017年度)でした。私たち漁師は、稚魚の放流だけでなく、稚魚が成長できる環境を整える活動にも積極的に取り組んでいます。

藻場づくり

海藻が茂る藻場は、稚魚の隠れ場所として大切な環境でしたが、海の埋め立てなどにより、今では激減してしまいました。私たち漁師は、稚魚が育つように、アマモやガラモなどの海藻を植える取り組みをしています（上部真ん中の写真）。海藻は、陸上植物よりもCO_2吸収速度が速いとも言われていて、温暖化対策にもなるのではないかと考えています。稚魚やウニの生息環境や、海藻食の魚のえさ場として、いいバランスが保てたらと思います。

海ごみ発生を減らす取り組み ～漁業用の発泡スチロール製フロート～

藤枝 繁先生　鹿児島大学 産学・地域共創センター 特任教授

1998年、鹿児島湾で行った国際海岸クリーンアップの結果、海岸に漂着するごみの中で発泡スチロール破片が一番多いという結果が出ました。その後の詳細な調査の結果、養殖漁業で使用されている発泡スチロール製フロートが原因であることがわかりました。きれいな海で魚を育てたいという漁業者と水産庁、リサイクル協会、工業会、メーカー等の協力により、破片化しないフロートへの変換と使用済みフロートの適切かつ早急な処分が進み、加えて錦江湾クリーンアップ作戦を中心とした市民による海岸清掃活動の成果もあって、約10年をかけて鹿児島湾の発泡スチロール破片は大幅に減少しました。これは海ごみ発生源をもとから改善する最初の事例となりました。

未利用魚について

未利用魚とは、大きさが不揃いだったり漁獲量が安定してなかったり、小骨が多くて食べにくかったりして、流通に乗らない・お店に出回らないお魚の事です。鹿児島では「さつまあげ」や加工品の原料として仕入れているところもありますが、そのまま捨てるか養殖のエサとする等、利用価値が低く流通価格もとても安いのが現状です。

漁師さんに会いに行こう♥

海の豊かさを守るために頑張っているステキな漁師さんたちとふれあえるイベントをご紹介！海や海の生き物たちがもっと好きになれるはず。

“里海”としてのアマモ場の再生

アマモ場の役割の話と、アマモ苗の植付け体験ができます。

日時：2019年10月26日（土）10:00-12:00
定員：小学生以上の親子10組20人
参加費：無料（保険あり）
開催場所：磯海水浴場（吉野町9684-2）
お問合せ：鹿児島県水産技術開発センター
（担当：奥原　誠さん）
TEL.0993-27-9211